音楽科　授業実践報告

題材名　ドローンをもとに 音を組み合わせて音楽をつくろう

令和５年１月２６日（木）第５校時
授業実践　第６学年１組

≪本時の目標≫

・テーマを考えて各部分の創作に取り組み、リズムや音楽の縦と横の関係を意識して全体にまとまりのある音楽をつくる。（思考・判断・表現）

深い学びポイント

１　つかむ	２　見通す	３　自力	４　協働	５　練り上げ	６　メタ認知

≪授業展開の工夫≫

①　【話し合う→試す→（録画する）→振り返る→修正する】というサイクルで「終わりの部分」を創作し、修正を加え、何度も試しながら音楽づくりを行い②T1 と T2 の２人体制で各グループの音楽づくりをサポートしていくことで、

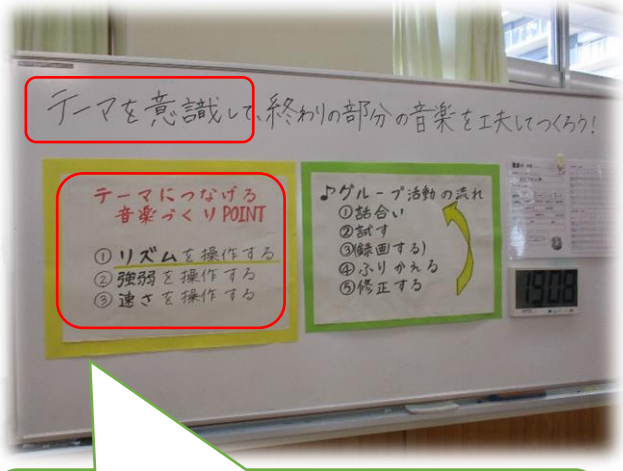
≪児童の変容≫

テーマに立ち返りこだわりをもって「終わりの部分」を創作し、他の旋律との関係を考えながら修正を行い、主旋律の「呼びかけ」と「応え」を聴きながら演奏していくことで、グループ活動の中で試行錯誤しながら曲を仕上げていこうとする姿がみられ、「深い学び」が実現されるであろう。

深い学びに到達させる手立て１

①　ルーブリックで自己調整力の向上を図る。
②　グループ活動の流れ・ポイントを明確化する。

ルーブリックで今日の授業で目指す姿を確認しよう。今日は・・・・



テーマに近づくために、何を操作する必要があるかな？〔共通事項と照らし合わせる〕

毎時間、児童とルーブリックを共有し、目指すべき姿を意識づけ、「今日はどのようにグループの友だちと活動をしようか？」「何をどんなふうに頑張ってみようか？」と見通しをもって自己調整力を高められるようにした。また、めあてを達成するためのプロセスを明確化することで、本時の工夫するポイントが具体化され、活動内容が見えるようになった。

深い学びに到達させる手立て 2

思考する時間を止めない環境づくりをする。

T1･T2 での指導体制

T1 と T2 の指導体制によって、グループ活動で、児童が思いを表現するために細やかに助言を行うことができた。また、教具の工夫により、自分で考えたことをすぐに表現し、音を奏でてはすぐに修正するという思考を止めないサイクルが実現できた。

ホワイトボード楽譜

終わりの部分の「応え」を修正しよう。
今度は、１と３で細かく演奏しようかな？

深い学びに到達した姿

全体の音楽づくりのテーマであった「海」から、グループのテーマ「〇〇〇な海」を考え、そのテーマに基づいて、音楽づくりを行った。テーマを設定したことで、即興的に試して演奏しながらも、「テーマに合っているかな？」「どんなリズムが合うかな？」と、集中して思考しながら何度も試す姿が見られた。

また、同じグループの他の旋律との重なり方からも、修正し、客観的に自分の旋律の役割を捉えようとし、グループの関わり合いを通して試行錯誤しながら音楽づくりに取り組むことができた。

指 導 講 評

さいたま市教育委員会指導１課　　指導主事　岩佐　章文　先生
さいたま市立教育研究所　主任指導主事　片山　賢　先生

〇児童が自立した音楽づくりは、今までの音楽の授業での積み重ね、下地があったからである。２０分間飽きずに取り組み続けるこの姿が出来上がるまでには経験の積み重ねが必要であった。音が音楽と認識できるまでには時間がかかる。音楽づくりの経験の積み重ねを大切にしてほしい。

〇ホワイトボード楽譜については、グループのメンバーで共有しながら、どんどん修正するためにとても効果的な手立てであった。今回はアナログの手立てが最適であった。

●次の時間からは、録画機能の見せ所である。ようやく形になった音楽を仕上げるために積極的に使用させていくと良い。また、仕上げていく段階で、より児童の思いがのせられることを意識して進めると良い。

●行き詰っているグループがなければサンプリングとしての中間発表会はなくてもよい。

成果と課題

◎学習の見通しをルーブリック共有し、調整力を高め、振り返りで次の学びにつなげていくことができた。今後も継続していくことが大切である。

◎児童自身が選ぶ・判断するという場面で、児童が最適な判断ができた。学び続ける児童の育成にとって大事な視点である。

●グループ活動の中で、思考を止めないためにも中間発表会の必要性を児童に尋ねて判断してもよかった。